



山名一族会報

全 國 山 名 氏 一 族 会
〒667-1311 兵庫県美方郡香美町村岡区
村岡2365法雲寺内
電話 0796-19811151
FAX 0796-19811161

山名会常任理事会開催

去る4月15日に、京都市・京都テルサを会場として山名会常任理事会（以下・役員会）を開催しました。会議には常任理事6名と相談役2名の方々にご参加いただき、昨年11月に行いました山名会歴史講演会の反省や会計決算、令和7年度・第29回総会の実施計画について協議願いました。その概要をご報告します。

今回会場に選んだのは、京都府の勤労・スポーツ関係機関と文化会館が合わさった複合施設「京都テルサ」という所でした。京都駅から地下鉄で南へ一駅離れた立地になります。広い駐車場もあり、小さな会議室なら時間単位で安価に借りることが出来ます。



会場の京都テルサ／会議風景

また、広い会議室やホールも有りますので、今後の山名会行事でもお世話になりたい施設のように思いました。

歴史講演会の反省

今回の歴史講演会には山名会員20数名の他、60名の一般聴講者がご参加いただき、総勢80名の規模で実施出来ました。会場には、広い西陣織会館の会場には、美しい時期であり、コロナ明けの間もありませんでしたが、これと言った歴史の節目でも無い年に行った歴史的な節目では、割と多くの地元の先生方が足を向

けてくれたと思います。多分、講師の山本先生のお話しを直接聞ける事を期待されて来られた方が多かったのだでしょう。

事業の内容について

- ・講師の山本先生の講演は、テンポが良く話題豊富で興味深いお話であった。
- ・有意義な講演だったもので、参加できなかった会員への報告の為に講演内容をまとめた小冊子を作成して会員に配布してはどうか。
- ↓とのご提案をいただき、事務局としても講演録編集を急ぎたいと思います。

そして、歴史講演会を行った当初の目的である新規山名会員の確保ですが、今回の行事を切っ掛けに2名の方が山名会参加を申し出ていただきました。この数が多いとは言えませんが、多少の良い効果が有ったものだと思います。

会計面について

今回は一般参加者の会費を無料にしたこともあり5万3千余円（講演会場費相当）の不足分が発生しました。この赤字につきましては、前年にも説明したように、山名会報の通常会計からの助成金で補填する事を承認いただきました。

た。（3万円は前期から処理済み、2万3千余円は今期会計から）

総会後の懇親会について

懇親会場までのタクシー手配が間に合わず、徒歩で移動された方が有ったようで、ご迷惑をお掛けしました。懇親会については、雰囲気や内容も良く、ゆつくりと時間を楽しむことが出来たと評価をいただきました。今後も出来るだけ懇親の場も大切にしていきたいです。

第29回山名会総会と歴史探訪行事に計画について

昨年11月の総会で、令和7年度の総会行事は歴史探訪を行うこととして、訪ねて行く先は、山陽（備後・安芸）方面とする方針が出ていました。役員会ではそれに沿って歴史探訪の具体的な計画を相談しました。山名会が前回、この方面で歴史探訪を行ったのが、31年前の平成6年（1994）になります。今回は前回のコースを参考にして、そこに東広島市の山名征三氏が、医業の傍ら25年の歳月を掛けて作庭された「現代版大名庭園」仙石庭園（せんせきていん）を相談し

ました。
更に役員会では、この方面を巡るのに際し押さえて置くべき史跡や参拝すべき寺社などについてアドバイスいただき、訪問先の絞り込みにご協力いただきました。
総会及び歴史探訪の実施計画の決定は、4月下旬にコース下見を行い、各訪問先を実際に訪ねてみてから、正式な旅程の決定としたいと思います。

歴史探訪訪問先の下見を実施

役員会で相談した福山・尾道方面から東広島へと巡るコースを想定して4月22日、23日に、この方面の訪問先下見に出掛けて来ました。
各訪問先の様子を簡単にご報告します。歴史探訪参加の参考にして下さい。

仙石庭園（東広島）

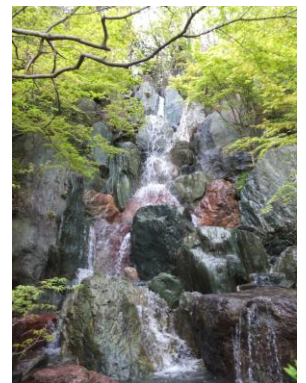
決定した旅程とは逆順になるのですが、最初に山名征三氏が作庭された仙石庭園にお邪魔し、山名苑主、自ら庭園をご案内いただきました。
庭園近くの高速インターを降り郊外の道を進んで行くと道は山に向かって、道幅も狭くなり、道を間違えたんじゃないかと不安になったのです。

が、赤い石州瓦を載せた農家が点在する集落を抜けて一山越えすると、急に視界が開けて緑豊かな田圃風景の中に仙石庭園と彫られた大きな石碑が姿を現しました。

私は麓から小高い山に向かって庭園が広がっている姿を想像していたのですが、実際は逆で、庭園入口から穏やかに下っていく斜面の地形を活かして池や植木、そして主役である銘石の数々が巧みに配置され居ました。順路に沿って歩を進めると、エリアごとのテーマに即した庭園風景や表現が変化して目を楽しませてくれます。ゆっくり見ていると何時間も掛かりそうです。
この庭園の面積は一万二千坪で、更に未整備の隣接地へと広がる計画があるそうです。また、この仙石庭園は日本での唯一の岩石・庭石の専門博物館の指定を受けており、無造



庭園内の様子



落差15mの仙神大滝

作に置かれた石の一つ一つも、その石の特質が良く分かるように配置されているようです。
私は余り石には詳しくないのですが、山名苑主に案内していただいていた石の持つ魅力が少しだけ分かったような気がしました。

山名会の訪問は11月下旬の予定ですが、その頃は庭園は紅葉のシーズンを迎えていると思います。色鮮やかな木々と石の表情を皆さんと共に楽しめればと思います。

西國寺

元々は天平時代に東大寺大仏建立に多大な貢献をした行基菩薩による開基。西國寺の由来は西國一のお寺を目指された事に由来するとか。尾道では千光寺に並ぶ存在感を有してお寺です。
創建以来何度も火災に見舞われ、その都度天皇をはじめとした外護者の寄進により再建を果たしています。現在残っ



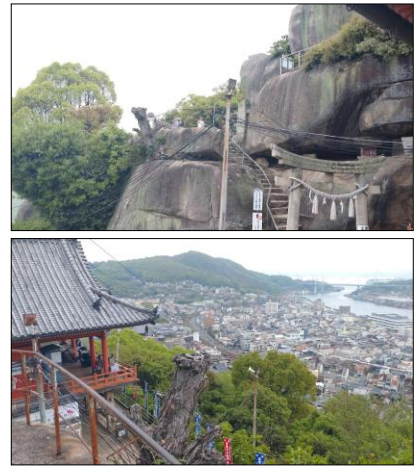
(上) 西國寺金堂・秘仏薬師如来安置
(下) 大わらじが掛かる仁王門

ている金堂（秘仏・薬師如来の守護職であった山名氏の寄進によるものです。また、境内最上部に建つ三重塔は、6代足利義教公の寄進と伝えられます。此方ではお堂に上げていただいていたの参拝をお願いしています。

千光寺・千光寺公園

西國寺参拝以降は観光ガイドの方をお願いして、尾道市街の各史跡ポイントを巡りたいと思います。
西國寺から千光寺ロープウェイ山麓駅までは街並みを楽しみながら徒歩移動し、ロープウェイで一気に千光寺山上へと登り展望台から眼下に広がるの尾道の箱庭的な景観を楽し

(上) 境内には厳しい行場も有る。
(下) 尾道を眼下に望む千光寺。



しみみます。その後は、文学碑が点在する参詣道を下って千光寺の境内へと至り、昔は山城であったと言う千光寺の奇岩・岩窟を上手に利用したお堂の間をぬけて本堂でしばし参拝、再び下るに従って変化ある景色を楽しみながら麓にある天寧寺まで下ります。

天寧寺

天寧寺は足利2代將軍義詮が、足利尊氏の意志を引き継ぎ建立した寺と言います。お寺のシンボルである三重塔は、最初、五重塔として義詮が建立しましたが、江戸時代に入っ

て行った厳島詣の際に、尾道の天寧寺に宿泊。当時の備後守護職は山名時義であったが、但馬で病に伏せていた為、父の名代として子の時熙が義満をもてなす事になる。

この時、天寧寺の浜辺から義満の御座船まで小舟を並べ、その上に板を渡して仮設の棧橋を作り、義満を迎え入れて、義満の好興を得たという浮橋の故事が伝わります。

この厳島詣が康応元年(1380)、この年に時義は没し時熙が家督を継ぐが、翌年の明徳元年(1390)に、義満は、時義・時熙親子は將軍に對し、遜なところが有ったとして、山名氏清等に時熙を討伐するよう命じ実行され、時熙は本國但馬を追われ備後へ逃げ、しかし、翌年の明徳2年(1391)には、義満は時熙を



(上) 千光寺から下り天寧寺へと進む。
(下) 天寧寺は牡丹の寺としても有名。

許す。これに氏清等が反発を、明徳の乱へとむかう事となる。山名氏にとつて天寧寺は変化の激しい数年間の始まりの地なのかも知れません。

神辺城址

福山駅から北に10キロほどの所に室町時代の備後守護所であった神辺城址があり、高さ百メートルの山城です。山名氏が備後守護職に任命された折りに築城されたと伝わり、その後幾度も改修が重ねられ、江戸時代初期に福島氏により、近代城郭として整備されました。近世城郭として、領主となつた水野氏は、狭な神辺城を廃して、福山城の築城に着手して、福山城の櫓や石垣の殆どが福山城に転用されたと言われます。

平成6年の時は、この神辺城址にて地元専門家の城跡説明を受けているので、今回も同様な事が出来るので、今回も資料館には小型の自動車で、俗資料館には、平成の市町村合併で神辺城址の市町村大職員も居なくなっている事か、今回も神辺城址の見学は諦めたという福山城の見学に切り替えるように思います。

城跡は余り手入れが出来ていない印象。山上には立派な史料館があるが、残念ながら関連資料は余り展示されてない。



の神社から高低差百メートルを歩いて上まで登ったようです。今回はここだけにゆとり時間を掛ける事が出来たので、福山城への変更をご了承ください。

以上、主な訪問箇所を駆け足で巡って来ました。平成6年の山名会総会の案内状には、備後地方に関して次のように記しています。

備後国は山名氏分国の中でも軍事・経済の両面で特別重要視されてきた。中興時氏が公が伯耆・因幡等の山陰地方を領したところからこの地方への進出が図られていたが、康暦元年(1376)に子の時義公が晴れて備後国守護

職を兼帯し以降時熙・持豊（宗全）・是豊・政豊・俊豊・致豊・祐豊・氏政と代々の惣領家が直轄領として一国を支配した。当然現地には守護代を置くことになるがこれは太田垣・宮田等の連枝や重臣を派遣している。

山陰・日本海側を本拠としていた山名氏にとって、温順な土地柄の山陽方面への拠点確保と維持は念願だったと思います。

また備後国の中で尾道は足利氏との結びつき深い地で、足利尊氏が「建武の乱」後の態勢を立て直しの為に九州を往還した際に尾道に留まった事も有って尊氏由来の「丸二」を掲げる寺院が幾つかあります。尊氏に付き従っていた山名時氏も、この尾道を訪れているかも知れません。

今回の歴史探訪では、備後路を会場として、山名氏と縁のある史跡を次のような行程で巡る計画と致します。

令和7年歴史探訪の行程

役員会での意見を参考とし、下見で得た事柄を勘案して、次のような歴史探訪の行程を提案いたします。

- ・実施日を令和7年11月19日（水）～20日（木）の1泊2日。
- ・集合場所は、JR福山駅南口に12時10分に集合。（各自で昼食は済ませて集合。）
- ・第1日目の行程は、福山駅集合↓福山城見学↓バスで尾道移動↓西國寺参拝↓ロープウェイ乗り場↓千光寺公園展望台↓千光寺↓天寧寺↓ホテル↓懇親会場
- ・尾道では史跡ガイドをお願いして、史跡の説明と道の誘導をしてもらう。
- ・懇親会は、地元会員様が尾道の味を楽しめるお店を紹介して頂きますので、お楽しみ。（尾道を代表する割烹旅館『竹村屋本館』を予定。）
- ・第2日目は、朝食後↓山名会の年次総会↓東広島にバス移動↓仙石庭園を散策↓仙石庭園で昼食↓広島島へ移動↓一力所見学↓広島駅にて解散。

といった流れを現在のところ考えています。

平日の開催で、現役の方には出にくいことですが、早めて、都合をつけていただきまして、ご参加を何卒お願い致します。

（別紙・「第29回山名会総会及び、歴史探訪の予定案」

も参考に願います）

第29総会及び歴史探訪の案内はお盆過ぎにお届け

直ぐにでも第29回総会及び歴史探訪の案内をお届けしたいところですが、11月の行事ですのでもう少しお待ちください。

再度、内容を検討してお盆過ぎにご案内致します。それまでお待ちください。

会員の皆様には、ご参加いただけますよう11月19～20日の日程調整お願い致します。

伯耆山名氏再興シンポジウム

5月25日に鳥取歴史振興会主催による山名時氏に焦点を当てた歴史シンポジウムが鳥取市で開催され、山名会からも倉吉市在住の会員様2名がパネラーとして登壇され、鳥取県内には山名姓の方が、沢山居られると思います。これを期に山名氏の存在感に注目が集まればと期待しています。

詳しくは別紙案内をご参照ください。

令和7年会費納入のお願い

年度も7年度へと改まりました。計画している行事が順調に出来ますよう、会員の皆さんには、年会費の納入をよろしくお願い致します。

送金には、同封してあります郵便振替用紙をご利用下さい。（納入済みの会員様には同封しておりません）

編集後記

山名氏と備後との関わりは古いうで、時義公より十代・百数十年に渡り備後国の守護職を務めて来た歴史も有ります。そんな名残を西國寺や神辺城址に留めているようです。ご提案のよう11月に備後路を会場に山名氏の余薫る旅を計画しました。また旅の最後には山名征三氏が医業の傍ら25年の時間を掛け昨年完成された仙石庭園の見学も盛り込みました。山名に関わる古いこと新しいこと織り交ぜての歴史探訪の行事となっております。

各訪問先だけで無く、歴史探訪の行事には多くの皆様のご協力やご好意を頂き計画を進めていますので、会員の皆さん、是非ご参加をご検討下さい。

また、5月25日には「伯耆山名」復活のシンポジウムも有るようです。良い成果が出ることを期待しています。

この件、後日ご報告をします。